技術系人材にこそ多様な選択肢のある進学指導を
―栃木県立県央産業技術専門校で考える―

開倫塾
塾長　林明夫

Q：いよいよ私塾界のこの連載も今回で200回となったようですね。この連載はどのような経緯で始まったのですか。

A：(1)思い返せば、私塾界の前代表山田雄司氏が主催した、17年前の2005年5月22日～5月28日に、米国チャータースクール最新事情視察(フェニックスとロサンゼルス)に参加した際、「林さんはあちこち勉強しに出掛けているようなので、学習塾・予備校・私立学校など民間教育の発展のために、勉強し、考えた内容を報告してほしい」。また、「林さんは本をいろいろ読んでいるようなので、民間教育の経営幹部の先生方が読んでためになる本があれば紹介してほしい」とのご依頼が山田代表からあったためです。

(2)以来、勉強不足であることを十分自覚しつつ、拙い内容ですが毎月ご報告させて頂いております。

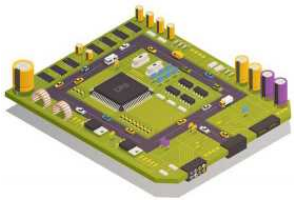
(3)おかげさまで、本号で200回目となりました。今までお読み頂いた先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

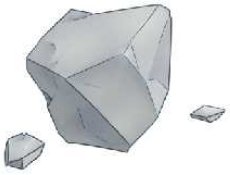
Q：林さんが今一番関心のあることは何ですか。

(1)コロナ禍後の日本の教育をどうするか、開倫塾を含め民間教育をどうするかに加え、ロシアのウクライナ侵攻による世界的な規模での政治的不安定→経済危機→世界大恐慌にも似た景気の落ち込みに、日本が、また、民間教育機関がどう対応するかです。

(2)とりわけ自動運転やAI、IoTなど、これからの基幹産業を支える半導体製品の製造は台湾や中国・韓国などにほぼ占められ、また、レア・アースなどの天然資源はロシアや中国など極めて政治的に不安定な国々によって供給されるために、日本の産業が立ち行かなくなる可能性すらあります。

(3)「経済安全保障」ということばによくあらわれている通り、これからは原点に立ち返り、どのように国際政治状況が不安定になっても大丈夫なように、国民の生活と安全、繁栄のために、日本の経済・社会の構造を根本から見直す必要があります。





Ｑ：具体的にはどういうことですか。

（１）世界がどのように混乱してもしっかり対応できるよう第一次産業・第二次産業・第三次産業をゼロから再定義。

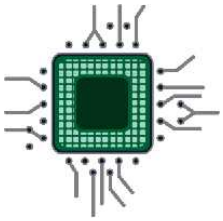
（２）イノベーションを徹底することで、すべての産業の国内需給率を大幅に上げることです。

（３）そのための人材育成を本音ベースで行うことです。大学無償化が叫ばれているなら、「大学」を「高等教育」と「定義」し、「高等教育機関」である「４年制大学」「短期大学」「専門学校」「専修大学」「大学院」の「役割」と「機能」を「再定義」。世界に何があっても日本が生き残れる「人材育成」、激しい環境変化に耐えられる国づくりを本音ベースで行うべきです。

Ｑ：「広い意味での高等教育機関、すべて無償化」ですか。

（１）その通りです。特に、高度人材を、ゼロベースから育成する「専門学校」への進学を推し進め、産業構造のゼロベースでの転換を、担い手の大量育成から行うべきです。

（２）前月号でもお訴えしました通り、日本は半導体の製造工場が少なく、ようやく台湾の TSMC を 4000 億円かけて九州に誘致、その人材育成のために九州地方にある８つの高専で半導体課程をスタートします。この動きを日本全国に広げるためには、日本にあるすべての工業高等専門学校はもちろん、各都道府県立の産業技術専門学校は、昼、夜、土日コース、長期休暇中コースなどありとあらゆる取り組みをして半導体人材を育成すべきです。



（３）学習塾や予備校・私立学校の先生方は、全国各地の高等工業専門学校や産業技術専門学校などの視察をもっともっと行い、中学校卒業、高校卒業、大学卒業の教え子の進学先とすべきです。

Ｑ：高専やそのような専門学校に進学して何かメリットがあるのですか。

（１）メリットがあるどころではありません。理工系の大学に進学しても、高専や専門学校で取得できる資格を自分で取らなくては仕事になりません。

（２）工業高校や大学を卒業しただけでは様々な資格を取るのが困難なため、就職してもラインや簡単な仕事になってしまいます。しかし、専門学校で学び、資格をどんどん取っていけば、マネジメントを担当でき、待遇もはるかにアップします。

（３）今後日本も農業はじめ国内生産があらゆる分野で再スタートしますから、専門分野の資格を取れば、何より仕事がなくて困ることがありません。

＊特に、あらゆる工事は Wi-Fi はじめ IT や IoT が関連しますので、ワードやエクセルの基本操作を身に着けた高度技術者はどこの分野でも引っ張りだこです。

Ｑ：栃木県立県央産業技術校を見学したそうですね。どうでしたか。

（１）３月６日（日）にオープンキャンパスがあったので参加させて頂きました。「ここは高級ホテルか」と思われるほどの素晴らしい設備。先生方は皆熱心、教材用の PC はじめすべての設備は最先端。募集人員は機械技術科の 30 名以外、すべて 20 名と少人数制。学費も私立の３分の１から４分の１。余り PR をしていないせいか競

争率も高くなく、余りあるメリットの割には、ハードルは極めて低いと思われます。

（２）設置学科は、金属加工科、制御システム科、IT エンジニア科、建築設備科、電気工事科（１年）、自動車整備科、以上高卒以上、木造建築科は中卒可です。

（３）この上に、東京都小平市の「職業能力開発総合大学校」（４年制＋大学院）や栃木県小山市の「関東職業能力開発大学校（２年＋２年の４年制）」などがあります。

＊いずれも素晴らしい内容なので、学習塾、予備校、私立学校の先生方はオープンキャンパスなどで十分に見学し、しかるべき教え子に進学をおすすめください。必ずよろこばれます。

Ｑ：最後に一言どうぞ。

Ａ：今月も僭越とは思いますが、先生方がお読みになれば参考になる本を何冊かご紹介させて頂きます。

（１）今月の１冊目は、何といってもスプリックス・代表取締役社長の常石博之先生の最新著「成し遂げる力、ニーズからすべてを始める、総合教育企業スプリックスの No.1 ブランド戦略」ダイヤモンド社 2022 年２月 15 日刊です。森塾の創業者、平石明先生と常石先生の今日までの熱い思いと、これからの夢・希望がわかりやすく語られています。フォレスタ使用塾のすべての先生方はもちろんのこと、民間教育の先生方の基本テキスト、必読書としておすすめします。是非、何回もお読みください。

（２）２冊目は、大湾秀雄著「日本の人事を科学する 因果推論に基づくデータ活用」日本経済新聞出版社 2017 年６月 14 日刊です。戦略的人事設計の必読書です。

（３）３冊目は、高島善哉著「アダム・スミス」岩波新書 岩波書店 1968 年３月 20 日刊です。来年 2023 年はアダム・スミス生誕 300 年です。本書を何回か読み、アダム・スミスに興味を持たれたら、「諸国民の富」「道徳感情論」「法学講義」の３冊を岩波文庫などで１年間かけてじっくり読むと、「新しい資本主義」を考えるよいきっかけとなります。現代社会に求められる力は、しかるべき「古典」をていねいに「読み切る力」と考えます。ロシアのウクライナ侵攻や中国の巨大化などを目（ま）の当たりにすると、では我が祖国「日本の経済社会のあり方」はどうあるべきか、自分の頭で考えることが大切です。高島先生のこの「アダム・スミス」は、そのよいきっかけとなります。

（４）４冊目は、シェイクスピア作 福田恒存訳「オセロー」岩波文庫です。 １か月に１冊ずつシェイクスピアの作品を読むのもコロナ禍の過ごし方です。

（５）５冊目は、「芥川龍之介全集 全 23 巻」岩波書店刊です。１～２か月に１冊ずつ読んで、第６巻（1996 年４月８日刊）までできました。

＊まだまだこのコロナ禍は続きそうです。今こそアダム・スミスやシェイクスピア、夏目漱石、芥川龍之介をコツコツ読む絶好の時期と考えます。皆様はどうお考えですか。

2022 年３月 31 日記

（3.11 東日本大震災 11 年目）